

日本語学習指導案

指導者

1 題材 受け身文

2 題材について

受け身形は広範に使われる文型である。行為を受けた側（それが自分である場合は、わたし）からの言い方をすることで、(わたしの) 状況を正しく伝えるために役立つ「先生がほめた」→「先生にほめられた」、「〇〇さんがたたいた」「わたしはいたい」→「〇〇さんにたたかれて痛かった」と受け身形を使って表現すると、自分の心情や状況を相手に伝えることができる。また相手の行動を強調したり責めたりする印象も相対的に弱くなる。更に同じ行為でも、行為の影響を受ける側が迷惑と感じているか、「～てもらう/くれる」を使って恩恵と感じているかをより適切に表現できることを知り、会話に生かすことができる。

4つの代表文例を通して、受け身文がどのような状況で使われるか理解し、自分の体験を基にして気持ちを表現することは自己開示につながり、日本語による相互のコミュニケーションが深まる題材である。

3 目標

- ①聞く・話す・読む・書く：例文について、聞いて理解できる。例文を読んで言える。また、できれば自分の経験を素材にして話したり自分の経験を素材にして文章を書いたりする。
- ②音声：動詞を受け身形に変換する練習においては、指導者・支援者が説明や範読で「せる/させる」の部分を強調して発音することがあるが、学習者は発音上の強調をしない。
- ③文字・表記：ルビをふった漢字を読める。「せる/させる」を混同しないで書ける。
- ④語彙：ほめる、招待する、たたくなど。
- ⑤文法：行為を受けた側からの言い方を学ぶ。また同じ行為でも、行為の影響を受ける側の気持ちによって、受け身文で言う場合と、「～てもらう/くれる」を使って言う場合があることも理解し、迷惑と感じているか、恩恵と感じているかによって表現が異なることを知る。また、日本語の特色として、自動詞も受け身になることを理解しておく。「～に～を」の助詞の使い方、「～を～を」と重ねて使うのはまちがいであることを理解する。
発展として、「ので」などを使って複文を作る。
- ⑥適応指導：受け身形で話すことで、自分の心情や状況を相手に伝えることができる。「〇〇さんがたたいた」「わたしはいたい」→「〇〇さんにたたかれて痛かった」

4 子どもの実態

対象の子ども	子どもの実態
小学校 高学年・中学生	背景 本国で小学5・6年生相当の学習を標準的に習得し、母国言語を使って抽象的な思考力も年齢相応に有している児童。来日してから一定の生活言語、マナー、コミュニケーションスキルを学び、教科学習へ移行する段階にある児童。特に家庭での日本語インプットが少ないと予想される児童。
	日本語力 適応指導を30時間程度終了し、学校生活に必要な文例を習得している。 サバイバル時期の日常会話を積極的に行い、簡単な文章を読んだり書いたりできる。 音声言語を中心とした習得方法からの発展として、文例を読み、理解する中で文法知識の習得を目指す段階。

5 指導計画

(4 時間)

(漢字圏母語話者の場合や年齢の高い場合は、語彙理解に時間を要しないので、3時間扱いとし、①②を1時間で行い、③④で2時間目、総復習と会話練習に当てる)

(1) 関連指導事項

時間	ねらい	言語材料
1/4	直接受け身	リーさんは先生にほめられました。
2/4	迷惑の受け身	わたしは犬に手をかまれました。
3/4	自動詞受け身	雨にふられて、ぬれてしまいました。
4/4	非情の受け身	この城は千年前に建てられました。

(2) 指導計画

時間		ね ら い	言 語 材 料
1/4	学 習	行為を受けた側からの言い方を学ぶ 「～は～に」の受け身形を作る。 動詞の「ない形」に「(さ)せる」をつける	代表文例① リーさんは先生にほめられました。
	言 語	ほめる、招待する、呼ぶ、しかる、などの受け身文で使われる動詞について学ぶ	立つ、たたく、ほめる、招待する、呼ぶ、しかるなどの絵カード、または実演
2/4	学 習	迷惑を受けた時の言い方を学ぶ 「～は～に～を」の文に助詞を確認しながら当てはめていく	代表文例② わたしは犬に手をかまれました。
	言 語	「足を踏まれる」「〇〇を壊される」など、日常で体験するような動詞について学ぶ	かむ、ぶつ、こわす、踏む、などの絵カード、または実演
3/4	学 習	自動詞の受け身形について学ぶ	代表文例③ 雨にふられて、ぬれてしまいました。
	言 語	降る、泣く、聞く、来るなどの自動詞も迷惑の受け身で使えることを知る	雨が降られて、赤ん坊に泣かれて、道を聞かれて困っている様子がわかる絵を準備する
4/4	学 習	非情の受け身について学ぶ	代表文例④ この城は千年前に建てられました。
	言 語	建てる、開催する、作る、発表するなど、主に社会的事実を客観的に述べる場合に、人など感情をもつもの(有情)以外のもの(非情)が主語になる。材料を示すときは助詞に注意する。例「ブドウから作られる」「木で造られた」	観光パンフレットや、城の写真・絵などを準備する。また学習者の母国の建物、行事、工業生産品などについて質問して作文材料にする。

6 本時(1/4)の指導

(1) 目 標

- 行為を受けた側からの言い方を学ぶ
- 動詞を「せる/させる」の形に変え、「～は～に」の受け身形を作る。

(2) 準備・資料

矢印のマグネット3枚、絵カード、写真など。

(3) 展 開

学習内容・活動	支 援 及 び 配 慮 事 項
文型の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の中のひとりに名前を呼んで「Aさん、立ってください」と声をかける。 ・ Aさんが立つと、全体に「今わたしはAさんに『立ってください』と言いました。Aさんから言うと、どうなるでしょうか?」 ・ 気がついた人に答えさせても良い。出ない場合は「『Aさんは、先生に立たされました。』と言います。」板書(漢字にはルビをふる)し、復唱するように促す。Aさんに礼を言い、座らせる。 ・ 別の学習者(B)に声を掛ける。紙にBの名前と赤ペンで100と書いた答案用紙に見立てた紙を見せ、Bに渡し、拍手するなどしてほめる様子を見せる。書いたその服や持ち物を指して興味ある様子を見せて、かわいいとか、きれいとか声に出してほめる。 ・ 全体に向かって、「今わたしは、Bさんが100点を取ったので、Bさんをほめ

	<p>ました。」と言い、「ほめる」の語彙説明をする。「では、Bさんから言うとうなるでしょう。『Bさんは先生にほめられました』ですね。」板書する。みんなで言ってみましょう」と言って復唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これが受け身文です。」「立つ⇔立たされる」、「ほめる⇔ほめられる」と板書し、同様に3例ぐらい受け身形にした動詞を板書し、これをヒントにして、文を作らせる。(たたく⇔たたかれる、呼ぶ⇔呼ばれる、招待する⇔招待される)など。それぞれに語彙説明をするが、「招待される」の文例では誕生パーティに招待される絵や写真、招待カードに見立てた絵カードを使って状況を示す。 	
練習	動詞	<ul style="list-style-type: none"> 動詞の「～ない形」に「せる」または「させる」をつけることを知らせ、現在形、過去形も確認する。 具体的な動作をイメージして話者が入れ替わっていることを対照的に示す行動をやって見せたり、行為者を→などで図示したりしてはっきり理解できるようにする。
	助詞	<ul style="list-style-type: none"> 助詞に注目させながら「～は～を」の受け身形にあてはめる練習をする。 年齢、生活に密着した文例を用意して動詞を変換させて文を完成する練習、または自由に作文する練習。 全体の前で発表させ、正しく作れたか確認し、肯定的に評価する。
文法的まとめ		<p>次時は直接受け身文のほかに、受け身文を使って迷惑を受けた気持ちを表す場合があることを知らせる</p>